

# 英彦の泉

聖母の騎士学園  
同窓会会報

☎850-0012  
長崎市本河内2-2-2  
TEL095-823-4523  
FAX095-823-4759  
-第18号-

## 世界と肉体と スミス神父の 復刻版に感謝

同窓会会長  
木場田友次



永井隆博士の文筆活動の第一号となった表記のタイトルの初版は、現在全国で数冊確認されているものの、すべて非公開でその存在すら人々から忘れ去られています。永井博士は聖母の騎士修道院、学園とは深い関係にありました。第一は汚れなき聖母の騎士修道院の創始者、聖マキシミリアノ・コ



ルベ神父の主治医でした。同聖人は重い肺結核を患い、当時長崎で結核治療の第一人者であった永井博士に長崎滞在中は治療を受けました。昭和20年8月9日、長崎に投下された原爆によって、自らも右側頭動脈切断により重傷を負いながら被爆者の治療にまい進されました。自宅とみどり夫人を失った博士は、聖母の騎士修道院に仮住まいをし、長崎医科大学に通勤する傍ら、一週間に一度、小神学生たちに生物の授業を行いました。ところが翌年の7月長崎駅で急に倒れ、それ以降は歩くことも、長時間座することも出来なくなりました。聖母の騎士学園の授業も中止となり、身体は動けなかったが、幸い両手も脳も機能している。永井博士は自分のなすべき事を考え、仰向けの

姿勢で鉛筆を取り執筆活動に入った。まず欧米でベストセラーになった「世界と肉体とスミス神父」の日本語訳をプルダン神父と共訳で、昭和22年12月に主婦の友社から出版した。この翻訳本が永井博士にとって初めての本となった。その時4万円の印税が入った。浦上教会にオルガンがなかったの、購入費として1万円を寄付した。その他病院、学校などに寄付をし、博士の手元には2千円が残った。戦後、初めて浦上教会内にオルガンの音が響き渡り、寄付金でオルガンが購入された事を知った信徒の中の大工たちは、トタン葺で雨漏りのする掘立小屋に住む永井博士のために、昭和23年春、かつての自宅跡に小さな家を建ててくれた。それはわずか一畳一間の家であった。永井博士は家を建てた信徒たちの愛を忘れないために、ヨハネ福音書の中

の「己の如く隣人を愛せよ」と言う一節をアレンジし「如己堂」と名づけた。余談ですが、永井博士が小神学生に生物の学科を教えていた、昭和21年秋の運動会で、アッシジの聖フランシスコの五つの聖痕に印をつける競技のために、同聖人の等身大の絵を永井博士は、2枚描いたのですが、その写真がコルベ館に所蔵されています。

来年は長崎に原爆が投下されて70周年の節目の年です。この節目の年に永井博士のご恩に少しでも報いるため、幻の本と呼ばれていた「世界と肉体とスミス神父」の復刻版を同窓会で計画しました。早速多くの会員から善意の寄付金が寄せられ、本年3月、2千部発行することが出来ました。紙面をお借りし心からあつく御礼申し上げます。尚本書の購入にご協力下されば幸いです。

## 同窓生の皆さんへ

聖母の騎士高等学校校長  
同窓会顧問 崎濱宏美



明るく希望に満ちた記事を載せて、読者の皆さんを喜ばせたいと思いが、私の周辺には大した情報はないようです。日本国内だけでなく、こ

のところが世界中のどこにも希望に繋がるとニューズが無いとあきらめざるを得ません。それどころか、こんなことがあっていいのかと思えるような「民間機撃墜」には、言葉を失うほどの衝撃

を受けました。私などは、世の中の動きや政治の世界には立ち入るべきではないのかも知れません。

今回は、職務上以外での私が関わっているあることを紹介したいと思えます。3年前の10月最終日曜日に東村山修道院主催の「ロザリオ祭」に出かけました。交通不便な場所なのに、100名以上もの参列者がおり驚きました。ミサの後、幼稚園のホールで茶話会が開かれていました。その時二人のご婦人が話しかけてきました。「私たちは『暁の星の祈りの会』の者ですが、初土曜日を中心にロザリオとベネディクション、それにごミサをしてい

ます。私たちの所にも来ていただけませんか。」「私は忙しいので無理でしょう。それに降福式とミサを続けてするのは良くないと思います。」「これは司教様から許可を頂いています。」「行ける時には協力しましょう。」

にまします」や「めでたし聖寵みちみてるマリア」を使うなつかしい響きの祈りです。私が知らなかった「ご聖体の連祷」や「償いの連祷」もあります。カトリック教会の永い伝統の中で生れ、生き続けている善き習慣をしっかりと繋いでいきたいという願いから生まれた「祈りの集い」であろうと思っています。聖職者である私などが忘れていた大切な部分を思い出させてくれる機会でもあると思っています。そして何より、「祈りを大切にしている人たちは、本当の信仰を生きている。」と感じさせてくれ、爽やかな歓びを実感しています。

約束通り可能な初土曜日の午後、東京・四谷のメリノール宣教会のチャペルで行われる「祈りの会」に出かけます。毎回約20名の参加者で、半数は韓国の方を中心とした外国人です。ご聖体顕示後ロザリオ、私は別室でゆるしの秘跡、そしてベネディクションに続きミサで終わります。儀式中はグレゴリアン聖歌を歌い、祈りも「天

のユーモアを交えた説明に聞き入っていました。また、即席で生徒の一人が花道に入ってきて、歌舞伎の「見得」を切ると、他の生徒から「日本一」との声がかかり、本人は得意満面の表情でした。全員が舞台上上がると、「桜吹雪」の演出もしていただきました。最後に舞台床下の「奈落」を通って

「八千代座」の見学を終えましたが、由緒ある芝居小屋を感じしながら見入っていました。ぜひ次回はここで歌舞伎を見てみたいものです。次に「北原白秋記念館」を訪ねました。バスの駐車場から御花・松濤園の前を通り、川下りコースのお堀沿いの道を柳の下をくぐりながらのんびり歩

いていきました。記念館には、たくさん資料が展示してあり、中には熱心にメモをとる生徒もいました。記念館の帰りには、日帰り旅行のお土産を嬉しそうに買っていました。

今回の見学日帰り旅行では、歴史、伝統文化、文学に直接、触れて感じる事ができ、有意義な一日になりました。なお、今回の旅行では、バス1台とマイクロバス1台に便乗して行きましたが、生徒の負担金をできるだけ抑えるために、同窓会として援助したことを付け加えておきます。

(会計報告済)

# 学園だより

日帰り旅行を実施  
しました 平成25年9月13日



隔年度に実施している学園劇ですが、都合により今年度は学園劇の関連行事として、平成25年9月13日(金)に芝居小屋「八千代座」(熊本県鹿川市)と「北原白秋記念館」(福岡県柳川市)の一日見学旅行を実施しました。「八千代座」では、勾配がつけられた桟席に3人ずつ入って座り、係の方

「八千代座」では、勾配がつけられた桟席に3人ずつ入って座り、係の方

「八千代座」では、勾配がつけられた桟席に3人ずつ入って座り、係の方



# 高総体と高文連 報告

2014 平成26年



平成26年度、長崎高等学校総合体育大会の開会式が5月30日(金)に長崎市総合運動公園かきどまり陸上競技場で行われました。本校からも副校長先生を団長に25名の生徒が参加し堂々たる行進を披露しました。競技の方は、バドミントン部と弓道の個人戦に出場しました。弓道競技は残念ながら予選落ちになりましたが、一生懸命に頑張りました。

なお、長崎県高等学校文化連盟にしましては、囲碁部とバグパイプ部が



参加していますので、バドミントン部も併せて各顧問から報告していただきます。

## 【剣道部】

剣道部顧問 廣島誠一郎

剣道部には現在2名の部員がいます。2年生の湊君は本校入学後に剣道を始め、目下初段を取得すべく練習に励んでいます。1年生の江頭君は小学校より剣道の経験があり、すでに中学で2段を取得しています。

今回の高総体は一人とも出場せず、見学させることにしました。特に江頭君には、中学と違う高校生の試合を見せ、これからの目標や課題を見つけさせるためです。もっと体力や筋力をつけて、技を習得する必要があります。二人とも秋の新人戦から出場する予定です。応援をよろしく願います。また今回、同窓会の皆さまから部活動への援助金をいただきました。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

## 【バドミントン部】

バドミントン部顧問 飯田友広

今年度の高総体は、団体戦2回戦(初戦)で佐世保工業と対戦し、相手に第2シードの貫禄を見せつけられ、0対3で完敗でした。個人戦は全て1回戦敗退でした。

ダブルスに関しては、河野・若杉組は第1ゲームを先取したものの、第2ゲームは序盤に大きく点差をつけられて取り返され、第3ゲームは慌てたプレーでミスが増えて競り負けました。中村・福田組は相手に恵まれましたが、相手よりもミスが多かった分、勝ちに結びつきませんでした。酒井・高木組は、緊張と気持ちの空回りであまりはぐなプレーがあり、思うようにプレーできませんでした。シングルスに関しては、河野が相手の揺さぶりに粘り強く耐え、シーソー



ゲームを展開しましたが、マッシュを狙いすぎてミスしたことが勝敗に響きました。若杉は相手が格上でしたが、後半に本人のミスが多くなって負けましたが、ミスを誘ってマイペースで試合を展開できました。高木はよく動いていましたが、まだまだ技術や戦術が練習不足なので、来年に期待します。練習を重ねてきて、自分たちのプレーができるようになってきたものの、高校からバドミントンを始めた生徒は、試合経験が不足していたと感じました。もっと貪欲に練習や経験を積み重ねたいと思います。

生徒たちはがんばっていますので、卒業生の練習参加を含め、これからもご支援をよろしく願います。



**【囲碁部】**

囲碁部顧問 **吉田博愛**

同窓会の皆様、いつもご支援ありがとうございます。

去る5月6日に青雲高校で行われた「全国高等学校総合文化祭囲碁部門長崎県代表選考会」に参加した本校2年生の小岱証君が、みごとに成績を残しましたのでここに報告いたします。その結果7月30日、31日に開催される

「平成26年度全国高等学校総合文化祭茨城大会」の「囲碁部門団体戦」に、長崎県代表として出場することになりました。遠く離れた場所での対局となり、本人も落ち着かないこととは思いますが、精一杯の頑張りに期待いたします。

**【バグパイプ部】**

バグパイプ部顧問 **熊川武俊**

5月25日(日)、バグパイプ部は、長崎県高校総合文化祭、「器楽・管弦楽部門」に参加しました。会場は、2千人収容の長崎では一番立派なコンサートホール、「ブリックホール」。オープニング演奏、それから本番演奏で、バグパイプの魅力をたっぷり伝えることが出来たかと思えます。こ



れまで、バグパイプ部はモットーである「バグパイプを長崎の文化の一つにしたい!」の実現のために、少人数ながらも熱心に練習を重ねて来ました。そして、最近その活動が少しずつ認められるようになり、この1年で、西日本新聞、読売新聞、N1B長崎国際放送などで特集が組まれ、紙面と映像で紹介されています。フェイスブックの「聖母の騎士学園同窓会」でも、紹介していますので、ご覧下さい。

8月3、4日には、全国高校総合文化祭「長崎県大会」でも演奏します。今は、それに向けて特訓中です。現在、部員はわずか3名ですが、聖母の騎士の心意気を発揮し、「聖母の騎士高校バグパイプ部ここにあり!」をアピールしたいと思っています。

**生徒募集** 母校で、ご子息を学ばせてみませんか。

■一般生

- ★1学年1クラスの少人数教育。
- ★学力が高い生徒のために進学コースを設置。実力をアップして上級学校への進学を目指します。
- 1 年生:「センター試験対策コース」
- 2・3年生:「国公立大学進学コース」

■神学生 (聖コルベ志願院 ☎095-828-0541)

- ★コンベンツアル聖フランシスコ会の神父を目指します。祈りに始まり祈りに終わる生活で信仰を深め、キリスト教指導者になるための知識・教養を身につけます。
- ★高校卒業後は一般の大学で神学以外の専門知識を身につけた後、上智大学神学部へ編入して司祭を目指します。このため高い教養を身につけることが要求されます。
- ★神学生の授業料・生活費は修道会より支給されます。

■校内特待生制度

- ★成績優秀な生徒には特待生制度により奨励金を支給しています。

**オープンスクールを開催します。**  
**10月11日 土曜日**  
**お気軽にご来校ください。**

※学校見学会は以下の日程で行います。  
 11月1日、11月15日、11月29日、12月6日  
 (全て土曜日です)

**寮完備**

県内外を問わず広く一般生徒のために寮を完備しています。規則正しい生活の中で、秩序と和を学びます。毎日の食事は、専門の業者による栄養管理のもとで提供されます。

**聖母の騎士高等学校**

長崎市本河内2-2-2 ☎095-823-4523  
 ホームページ <http://www.seibonokishi-2008.jp/>



# 各地区からの お便り



～佐賀便り～

## 山下教頭のこと

～音楽との出会い～

奄美支部 塚原裕一

今は故人となられたが、山下種繁教頭との出会いがなければ、現在の私は違ったものになっていただろう。

小学六年生の頃、父の勧めもあって私は私学の進学校（鹿児島県R校）を目指して受験勉強をしていた。そんな時、佐賀教会の待降節黙想会の指導司祭として来られたのが、山下神父だった。しかし神父の真の目的は生徒募集。本校が神学校の門戸を開き一般生を入れ始めて、確か2年目位の時だったろう。その網にすっぽりハマったのが父いや私だったのである。

受験前の学校訪問の折、山下教頭の居室でお茶を飲みながら、師作曲のミサ曲を聴かされた。琴の伴奏に和旋律のメロディ。そして澄み切ったボーイスoprano。その美しさに、子供ながら

衝撃を受けた。「よし、自分もこの学校で合唱団に入る」と思い進学を決めた。ところが、いざ入学し合唱団に入りたい旨を師に申し出ると、何と生徒が変声期を迎え、合唱団は数年前解散したとのこと。ガックリしたのを覚えている。そんな私を気の毒に思われたのか、師からオルガン奏者の任を与えられた。鍵盤を触るのは初めてだったが、見よう見まねで卒業前にはカトリック聖歌集なら弾けるようになっていた。

岡山大学に進学し、やはり合唱への憧れが残っていたのだろう。男声合唱団コール・ロータスに入部。そして、3年の時には、学生指揮者としてジョスカンデプレのミサ曲を振ることが出来たのは良い思い出だ。

時は経ち、私は家業の旗店を継いだ。そして2007年、佐賀の奇跡。地元の佐賀北高校が甲子園優勝し喜びに沸く地元の取材で、横断幕を作っていた所をフジテレビで放映された。そして数分後、電話が鳴りあの懐かしい声を聞いた。町田市に住む山下師からだった。近々福岡大名町カテドラルで行われる叙階式で会いたいとのこと。更に驚いたのは、叙階される新司祭は、佐賀教会出身の井手神父、山下師の甥で親代わりとして叙階式に列席することだった。前晩の長崎でのクラス会、そして早朝に長崎を出て無事

福岡の叙階式に参列でき、私の運命を変えた山下師と再会したのだった（写真）。

マイナスプラス1、神様は本当に不思議な計画を立てられるものだと思った。自分の司祭への夢を、子息に託している同窓生がいるのもその計画なのかも知れない。

ここ数年、大学OB合唱団ができ、約80名の先輩後輩とともに演奏会ステージに立っている。そしてまた、音楽への憧れが蘇ってきた。

今私は、佐賀大学文化教育学部音楽過程で科目等履修生（聴講生）として、週1回であるが声楽のレッスンを受けている。音楽との出会い、そのキッカケを与えてくれたタネモン。聞こえますか？そもそもは師の網にハマったのが始まりだったんですよ。



▲山下師との再会

## 有限会社 塚原旗商会

塚原裕一（第26回生）

本社：佐賀市白山1丁目8-13

TEL.0952-26-3335/FAX.0952-26-7580

校旗、優勝旗、応援旗、社旗、節句のぼり、ハッピ、和手拭、トロフィー、神社幕、のれん

# 〜関東支部便り〜 年を重ねると無性に生まれ故郷が 恋しくなる、 そして友に会いたくなる

関東支部 徳永義雄



スーパーの魚売り場で長崎産のあじのひらきがあれば長崎産だけでついつい手が伸びてしまう。長崎産のかまぼこがあれば又同様である。

それは故郷のものであれば安心であると思うのと同時に、故郷を身近に感じ懐かしくいとおしい気持ちにさせてくれるからだと思う。

## 【故郷の村のコンピニ】

私のふるさととは長崎県は平戸市古江町大瀬の自然がいっぱいでのどかな田舎であった。

電気ない、ガスない、水道ない。ないないづくし。電気はカンテラ。ブリキでできた容器で灯油を浸した綿の先に火をともしたもので、歌に出てくるような丸いガラスで覆われたようなかっこいいものではなく、風が吹けば炎が倒れ消えかかるので手のひらでおさえて消えるのをしのいでいた。そのカンテラは食卓の丸いお膳の真ん中におき家族がそれを囲んで夕食をいただいた。

小学生のころ、学校で絵を書いてく

る宿題があつて、昼間書けばいいのに夜思ひだしたものだから大変。クレヨンで書いたんだがカンテラの光では黄色と白色の区別がつかず、間抜けな絵になっていたのを覚えている。

煮炊きは当然まきである。麦飯をたくのもまき、めざしを焼くのもまき、いもをふかすのもまき。おかげ遠赤外線で温まった火の通ったおいしい料理をいただいたものである。

水は家の下の谷に掘られた井戸から天秤棒の後先に一斗缶で運び上げていた。まだ小学生で、しかもクラスで一番ちびときてるので一斗缶の底が地面にあたるので天秤棒に一斗缶のひもをぐるぐる巻きにして長さを調整していた。六年生になるころには右肩に背負いこぶができるほどであった。その後背が伸びなかったのはその時のせいではないかと思っている。

そして、村にはコンピニがあつた。それは、生活にかかせない必需品が輪番制で普通の家庭におかれていた。徳用マッチ、洗濯石鹼、醤油、ろうそく、などなど。品揃えは多くはないがないと困るものばかりである。よくお

使に行かされたものである。

## 【故郷の教会】

私の古江教会は平戸教会の巡回教会で、ごミサは二週間に一回で、日曜日の夕方からだった。一年の主な祝日には平戸教会からオルガンを手漕ぎの船にのせて運んできては、歌ミサが盛大に行われたものである。もちろんオルガンスト付きである。そのころの教会は祭壇と信者席に囲いの手すりがあり、その手すりは木製の彫刻が施されていて、ちよつと豪華であつた。

神父様は説教の時、手すりつたいに右に行ったり左に行ったりしながらマイクなしで信者に話かけていた。時には子供の前に止まって話しかけてくる。神父様と目が合わないように顔をふせていると、『よしおはちゃんとこうこうばしよつとね。こうこうたつて沢庵のこうこうじゃなかとよ。親孝行のことたい。』と私の名前を呼ばれて、冷や汗をかきながら神妙に聞いたものである。手すりのさかいはあつたが家族的な雰囲気でも懐かしく思ひ出す。

主な祝日には村中の信者が教会に集まり、板の間の信者席は足の踏み場もないくらいに人でいっぱいになり、履物は玄関からあふれ外まで達していた。今は私がいた古い教会は建て替えられ五、六軒の家族が教会を守っていると

の事である。

時の流れとはいえ、田舎の教会をあとにして都会に来てしまった私には少し心が痛む気持ちである。

## 【教会巡り】

年を重ねると人恋しくなってくる。

昨年は同窓先輩のいる鹿島教会にいき、崎濱管区長様の黙想会に出席させていただいたり、今年になってからは七月の初めには成田教会のごミサに出席させていただいた。このごミサが終わってから、初めて成田教会に来た方ということ自分で紹介の時間をいただき、所属の教会は千葉寺教会であること、出身は長崎県は平戸であること、その後聖母の騎士に入ったこと、聖母の騎士の同窓生がこの教会にいて教会巡りをしていることなどを話すと、『私も佐賀県伊万里出身です。』『私も佐世保の出身よ。』と話かけてきて懐かしい故郷の話で嬉しくなる。

又、つい最近では7月19日にパウロ会の神父様の講演会が平塚教会で開催され、同窓先輩と出席させていただいた。先輩は大磯教会にも案内して下さり、日本瓦のしつとりと落ち着いたおもむきのあるたたずまいは大変気になって、隣にあるテニスコートをうらやましく思い再来を誓いました。これからも教会巡りを続けていこうと思う。

# 〜長崎便り〜 修道生活50年を振り返って

聖母の騎士修道院ブラザー 松下昭征

「光陰矢のごとし」の言葉通り、来  
年修道生活50周年を迎える歳になりま  
した。

1965年4月、東京・東村山の  
大神学院で誓願を立て、1971年  
までは大神学生として、1971年  
後半からは修道士として過ごしてきま  
した。その間、住まいも東村山、杉並  
区西荻窪、練馬区関町と管区長館の移  
転とともに、1988年3月まで事  
務局一筋に仕事に打ち込んでしまし  
た。思いがけない転機が訪れたのは、  
1987年に行われた本会の総長によ  
る視察の際でした。個人面接が行われ  
た時、事務局に永年いることを指摘さ  
れ、イタリアのアシジへ行くように任  
命を受けました。出発まで3ヶ月しか  
余裕がなく、個人レッスンでイタリア  
語の特訓を受け、十分な会話ができな  
いまま1988年4月に単身アシジに  
向かったわけです。



3月に帰国することになり、聖母の騎  
士学園の寮監として3年間40〜50名の  
寮生の世話をするようになりました。  
その当時は沖縄からの寮生が大部分を  
占め、活気溢れる毎日でした。その後  
3年間の任期ごとに転任となり、いろ  
いろな経験をさせてもらいました。  
また、1997年は日本26聖人の殉  
教400年の記念すべき年でした。こ  
の年の前後には、トマ小崎修道士とコ  
ンピを組んで日本全国、北海道から沖  
縄まではもちろん、ブラジルまで「日  
本26聖人」の無声映画を上映して回っ  
たことも忘れられない思い出です。日  
本国内では100ヶ所以上回り、評判  
も上々でした。

いろいろな体験の中で、一番の思い  
出は2001年10月のイタリア・フラ  
ンス・ポルトガルへの巡礼です。この  
巡礼は家族同然のメンバーで、88歳の  
母を同伴しての旅行でした。高齢の母  
が長時間の飛行機に耐えられるか心配  
でしたが、いざ旅行を始めてみると、

何の気遣いもないほどで、食事も問題  
なくすべて順調でした。この旅行中一  
番のサプライズは教皇謁見に招かれた  
ことです。それは2001年10月24  
日のことで、旅行のスケジュールでは一  
般謁見のはずでした。謁見が行われる  
朝、一般の謁見者とともにバチカン広  
場に向かいました。私は車いすの母を  
押して進んでいたのですが、広場の中  
ほどまで来ると係員の人が手招きする  
ままずっと進んで行くと、何と謁見場  
の祭壇の真横、ヨハネ・パウロ2世教  
皇様まで15mの距離でした。謁見の最  
後に一人ひとり教皇様の前に呼ばれ、  
手に接吻することができたのは母に  
とっては夢のようだったと思います。  
謁見後巡礼は続き、フランスのルル  
ド、ポルトガルのファティマまで、私  
たちも驚くほどの元気で帰国するこ  
とができました。

その翌年に母は亡くなり、謁見を許  
されたヨハネ・パウロ2世は、今年4  
月27日に聖人の列に加えられました。  
聖人を間近に見ることができたことは  
私の人生にとって神さまからの大きな  
恵みです。25周年は6名でしたが、川  
下勝師、川淵明師、浜口勇師の3名は  
すでに神のみもとに召されました。そ  
して50周年を目前にして、神の摂理に  
深く感謝し、これまで支えてくれたす  
べての人にお礼を申し述べたいと思っ  
ます。感謝のうちに。

# 〜長崎便り〜 原爆から英彦の泉へ

長崎支部 峰 徹

あなつかしきみははマリア、  
うみの星とかがやきませ  
なみのまにまにただようふね、  
みははマリアみちびきませ

原爆で家も親も失い、5人の子供は  
路頭をさまよいました。長女は12歳、  
長男の己は9歳、5歳の弟、次女三女  
は夫々3歳、1歳でした。三女は栄養  
失調でやせ細り、泣く元気もなく長女  
の背中に負われていました。ちょうど  
その時です。けたたましく鐘が乱打さ  
れ、敵機来襲！敵機来襲！と誰かが大  
声で叫んでいます。うわーっ、こわ  
いどうしようどこに逃げよう」とっさ  
に体を地面に伏せるほかありません。  
ほどなく飛行機が姿を現しました。星  
のマークのアメリカ軍機ではありませ  
んか！機銃掃射されたらひとたまりも  
ありません。がたがた恐怖におびえ、  
言葉もできませんでした。その時です。  
「こっちにおいて」「見知らぬおじさん  
が手招きしています。その方は、縁も  
ゆかりもない私たち子供を自分の防  
空壕にかくまってくださり、「早くお  
母さんが見つかるといいね」と言いな  
がら、一人一人におにぎりを食べさせ  
てくれました。この時ほど人の情が身  
にしみて有り難く感じたことはありません

せんでした。そのあとで、稲佐署にやっとたどり着いたのですが、そこは助けを求める人であふれ、安心できる居場所ではないのです。しかし、署の計らいで、被爆者の避難所の一つであった磨屋国民学校に移送され、やっと落ち着くことができました。学校のグラウンドには大きな炊飯釜が据え置かれ、一日二食おにぎりを食べさせていただきました。中身は味噌入りでしたが、大変美味しく、嬉しくいただきました。幸い私たち兄弟は無傷でしたが、負傷して瀕死の子どもたちも多数いたのです。その子たちは次々に亡くなり、遺体は大八車に積み込まれ運ばれて行きました。人間がごみ扱ひ同様の痛ましい光景でした。

と原爆から解放され、自由と平和の到来に皆が喜びました。私たち兄弟も人々の善意に助けられ、成長して夫々の道に進み、今日に至っています。不肖私は「愛の天使」と称されたぜノ修道士創立の聖母の騎士学園に入園し、その縁で聖母の騎士学園に入学、中学高校の過程を終了させていただきました。その間、学園および修道会の皆様にはたいへんお世話になり、心より感謝申し上げます。最後にありますが、騎士園および学園在学中で最も印象に残っているのが、本文冒頭に掲げた「英彦の泉」と称されるルルドで歌った、「ああなつかしきみははマリア」の讚美歌です。この歌は、わが人生の心の宝石です。人生の明るい転機となりました。

### 〜長崎便り〜 近況報告

長崎支部 峯 重昭

故郷五島に帰って来て、早や27年。現在55歳を生きています(何程の自覚ありませんが)。



去年魚釣の事故で亡くなった同級生に代わり、今年は福江教会のソフボールチームの監督に就任(自薦による)しました。「エクレジア」というチーム名で、一般ファーストピッチと、壮年スローピッチの2クラス

ナイター大会に出場しています。ちなみに今年度第一回目の五島市長旗大会では、ファーストピッチBクラスの一部で初の準優勝でした。でも実際の試合では、開始時間までにメンバーが揃うのだろうか、誰をどのポジションで出場させれば良いのだろうか、監督としての、上に立って皆に仕える者になる苦しみを味わっています(用具運びも、チームの会計も兼

ねていきますので)。ただ試合が始まれば、エラーしようが三振しようが、楽しいです。

先日、5月の第4日曜日、本当に久方ぶりに本河内教会のルルド祭に参加してみました(丁度息子が今年修練期を迎えて本河内にいるので、その顔見たさに参加した訳ですが)。特に第五玄義のレリーフ横の木が大きくなってること。その木に付いている苔の何とも言えぬ見事さ。またルルドに上がる直前にその間を通る大木のそそり立つ迫力。時の経過と共に、木々は皆とてつもなく大きく育っていました。ロザリオの祈りを唱えながらの行列と、ルルドでの感謝の御ミサ。穏やかな時間を過ごすことが出来ました。10月のロザリオ祭にも、是非参加したいと思っています。

ひよんなことから今年は、荒れ果てた元田圃を切り開いて、ポンカンやデコポン等みかんの木を20本ばかり植えてみました。週末ごとに車を25分程走らせて、世話をしたり様子を見に行ったりしています。中には葉っぱが全部枯れてしまつて、しばらくたつてから新芽が復活してくれたたり、今になって葉っぱが無くなつてしまつたり、はらはら、どきどき、させられています。これから実を収穫できるようにするまで3年・4年。頭が薄くなつて行くばかりの今日この頃です。

### 〜奄美支部便り〜 拜啓 マリア様

奄美支部 恵満二郎



拜啓、マリア様、ご復活祭おめでとうござります、五月、ロザリオの季節になりました。奄美は寒くもなく、暑くもないとてもすがすがしい日が続いていますが、もうすぐ梅雨入りです。

さて、神様は私に神父の道を啓示されず俗世間の中で苦勞して生きよ、と啓示されたようで、はたして世の中は厳しく現代社会の中の喧騒や誘惑に惑わされながら信仰も揺らぎ……  
「神様そりゃあないですよ」と畏れおおくもばやき……  
マリア様には世俗的なお願いをする

と、マリア様は  
「あーた、物欲は一瞬、信仰は永遠よ」と諭され、それでも性懲りもなく「私は、あなたの騎士ではないですか」と、途方もない詭弁を弄しマリア様を困らせ  
「こりゃあ、マリア様にこの一愚か者!と叱られるなあ」……  
と思ひ顔をあげると  
「主は乗り越えられない試練はお与えにはなりませんよ」と、とても柔和で優しい顔で微笑まれ……  
不遜にも「そりゃさうですよね」と



納得し、

でも、不思議なことに進む道を見失い困りはてていても、ふと、目を上げるとそこにいつの間にか道が開けており、これはきつと天の父上様にマリア様がおとりなしをして下さったので、それできつと天の神様がお恵みくださったのだ、と喜び勇んで急ぎ感謝の報告に行くと、マリア様は、

「そりゃよかったね」と、いつものようにやさしい笑顔で微笑まれており、愚か者のわたしは又、時がたてば同じようなお祈りをし、マリア様はきつと心労のあまり白髪も増えたのではないかと余計な心配をし……

マリア様、あなたに「今までの人生短かったか」と言われれば、アツという間で「長かったか」と問われればそりゃもう、とてつも長く感じられるわけ……でも、その中でこれまたとてつもなく大きなお恵みをたたくさんいいただきここまで来ることが出来ました。今年で65歳、頭の上に掛けてあるメガネをどこに置いたんだろうと探したりしている今日この頃です。

今や老々介護の日々、なるべく平和でなるべく楽しく元気でと思っっています。マリア様にはまた「聖母の騎士」と甘えて愚かなお願いをお祈りするかもしれないませんが、愚か者のすることどうか聞き流してください。

「主は乗り越えられない試練はお与

えにならないのです」から、でも、この弱き騎士はいつも誘惑に惑わされ、はらはら、ドキドキさせるかもしれないが、どうぞ見守ってくださいね、私だけでなくすべての人々を……

拝啓、マリア様、またお手紙を書きます、懲りずにまた読んでくださいね。敬具

### 「奄美支部便り」 「結いの心」

奄美支部 久保 徹



私のふるさとである奄美大島には、自然はもちろん、人と人との温かさが日々あふれている場所です。

『結いの心』 住民が日常生活の中でお互い支えあう心……

私が奄美に帰ってきて、早10年以上が経とうとしています。小学校を卒業後、母校である聖母の騎士で中学、高校とお世話になり、少しの間でしたが上京してから、ここ奄美に帰ってきました。

帰る時は、本当に友達に支えられたと思います。とにかく、島に7年間いない私を、いつもの遊び仲間となんら変わらず受け入れてくれたからです。島の友達の温かさは今も変わらず、飲み仲間として支えられています。いつまでも本当に変わらず、人を受け入れ

る温かさは島ならではの思いです。

長崎では中学・高校時代にバレー部に所属していたことから、昨年まで地元小学校のバレーボール部の監督をやらせて頂いていました。強いチームとは言わなくとも、この子供たちには、私の感じたように仲間を大切にしていける心も、しっかり持って育ってほしいものです。

今の時代テレビのスイッチを入れると、テロとか薬などと、嫌なニュースばかりのような気がします。他人を思いやり、支える気持ちをもう一度思い出し、家族や友達によって支えられていること、決して一人きりじゃないと言ったことを忘れないで欲しいですね。『結いの心』 この言葉が、日本中どこでも聞こえるように願っています。

### 「奄美支部便り」 「取り次ぎ・おもてなし・贈りもの」

奄美支部事務局 田下三佐男



この教会の案内には、次のようにある。

「1994年8月14日、聖母被昇天の前日に多摩教会の信徒館（仮聖堂）が落成。新しい教会は、折から聖コルベ神父の生誕百年を迎える時期にあたり、この最も新しい現代の聖人を保護（守護）の聖人としていただくことになりました。教会には、「聖コルベ神父の遺物」が安置され、崇敬の念を集めています。この遺物は長崎でそられた顎ひげで、ポールの修道院に保管されていた一部をいただいたものです。」

さらに、2014年4月の復活祭には39名の方が洗礼を受けられると記事が出ていた。ならば是非一度、そのミサに授かり洗礼式を見てみたい……と、聖コルベの取り次ぎを願った。（求めよさらば……マタイ7章）、チャンスは意外と早くやって来た。奄美から鹿児島へ船で渡り、飛行機で成田へ向かった。レンタカーに乗り換えて、東京・多摩教会にはスムーズに到着できた。教会受付の方に無理にお願いして、とても忙しくしておられた晴佐久神父に、アポなしでお会いできた。



▲久保監督とチームメンバー  
小学生に丁寧な指導を。毎週2回の練習でした。



●奄美支部総会

平成25年6月2日 日 午後1時30分～  
 教会の聖堂にて、聖体賛美式を行い、マリア教会ゼ  
 ローム館で支部総会を行う。  
 配山議長の進行で、議事の検討に入る。  
 前年度の事業報告、決算報告、監査報告、提案のと  
 おり承認される。  
 今年度の事業計画、予算案、その他についても審議  
 し特別異議なく了承した。

●物故者

平成26年3月6日：故 押川しずか様  
 押川光仁さんのお母様。  
 大熊教会の葬儀ミサで  
 ご冥福をお祈りした。  
 同窓会がバザーを行っ  
 たときには、特製のあ  
 く巻き作りの指導をし  
 て頂いた。



●聖コルベ記念ミサ

平成25年8月14日 水 マリア教会



ミサの前に祝別された不思議なメダイ



在世フランシスコ会員も参加して交流を深めた。



イタリア製の十字架

白黒に見えるが、高級大島紬の幕  
マリア教会のロゴ

イタリア製の聖櫃

大理石の祭壇

手掘りの彫刻  
最後の晩餐

コンベンツアル会奄美来島50周年記念聖堂



ミサ後に久しぶりでお茶会となったが、平日のため全員禁酒席



水曜日の晩、平日のミサに地元の信者  
さんと参加した。

●草刈の奉仕作業 赤尾木

平成25年6月2日 日 希望の星学園で草刈作業  
 午前中9時集合で、草刈作業を開始し予定時間の  
 12時前には、担当エリアをいつも以上に綺麗に出  
 来た。事務局がデジカメを忘れたので、残念なが  
 ら証拠映像は掲載できないが、猛暑の中で全員が  
 奮闘した。

「洗礼式を拝見したく、奄美から  
 やって来ました」!?と事情を説明す  
 ると、突然のよそ者であろう筈のな  
 い、翌日の復活徹夜祭になんと、特  
 別指定席を準備して下さいました。超ミ  
 ラクル!

聖土曜日は6時半からのミサなの  
 に、5時前に教会に行くとするでに大  
 勢の方が来ておられた、(普通の教  
 会では遅れてミサに来るのが当たり  
 前なのに……?)、受洗者とその代  
 親だけで80名ほどが前列に、その後  
 ろが親族席になっていた。教会に入



▲一度にこれだけ大勢の受洗者が誕生した

●深堀貴神父さま追悼ミサ

平成25年10月11日 聖マリア教会

西宮で帰天されたサムエル深堀貴神父さまの追悼ミサが、奄美大島でも捧げられた。



7名の司祭による共同司式



深堀神父さまを偲んで多くの信者さんがミサに集まり祈りを捧げた

●命日祈念ミサ

平成26年3月19日 水

故ゼローム神父さまと、故ラファエル修道士の追悼ミサは、奄美関係で宣教活動された修道士の追悼ミサに変わりました。

奄美に派遣されたコンベンツアル会の宣教者によって、多くの若者が長崎の神学校に送られ司祭を目指した、奄美出身の司教が誕生し、司祭となった者、修道士の道へと進んだ者、地元に戻り社会・教会で活動する者……、9年前に、聖母の騎士同窓会奄美支部が結成された。先輩の宣教者たちへ毎年感謝のミサをお捧げしてきた。8月は聖コルベ司祭、3月は奄美に関係した宣教者たちのために、ささやかではあるが、祭壇の前に顕示して遺徳を偲ぶ残された者たちが祈りの務めを果たすために……。



かつての奄美修道院跡にある納骨堂に分骨されて納められた。

サムエル深堀貴神父

奄美で宣教活動を続けるコンベンツアル会の司祭



歴代の奄美修道院長の司式ミサは恒例となった。



まだ他にも多くの宣教者が奄美に来た、来年も感謝の祈りは続けられる。

れない地元の信者さんの多くは、隣接する信徒会館で大型モニターによるミサ参加となった。厳かな火の祝別に始まり、盛大な洗礼式に入った。祭壇の前で練り広げられる光景は、かつて洗礼者ヨハネがヨルダン川で人々に洗礼を授けている映画のシーンと同じで、この教会のミサと秘跡の儀はまさに、奇跡そのものであった。これだけ大勢の洗礼と明快な説教も入れて3時間程の流れを準備された全スタッフに感服した。この貴重な体験に改めて、聖コルベの（取り次ぎ）に深く感謝し、主任司祭のこの上ない（おもてなし）と、お心遣いに厚くお礼を申し上げて教会を出た。

話は変わって16年ほど前、沖縄へ行った。早めに自分の用事が済んだので、那覇教区司教館を訪問した。その時お会いした押川司教さまから頂いたのが、白いロザリオである。

「これは、先日アドリミナのためバチカンを訪問した時、教皇ヨハネ・パウロ二世と食事をして、その後で直接頂いたものだから、大切に祈るように……」恐れ多くて躊躇したが遠慮なく両手を重ねて差し出した。そして記念にと、ロザリオのケースの裏にサインまでして頂いた。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、コルベ神父を列聖された。教皇フランシ

スコは今年、教皇ヨハネ23世と教皇ヨハネ・パウロ二世を同時に列聖された。復活祭の次の日曜日に、バチカン放送のライブ中継でその列聖式を感動のうちに観ることが出来た。以前、教皇ヨハネ・パウロ二世が日本に來られて、長崎の大橋陸上競技場で雪中の中、野外ミサを司式されたが、その時かなりの至近距離で直接、お顔を拝むことが出来た。本当に穏やかで、すてきな笑顔の方であったことが思い出される。

ナント、沖縄で頂いた「白いロザリオ」は今年、新聖人となられヨハネ・パウロ二世の(贈りもの)に変わったのだ！聖人から頂戴したことに……!!? 聖母の騎士の創立者聖コルベ神父、聖ヨハネ・パウロ二世教皇、偉大なポーランド出身の二人の聖人によって、今年は春から信じられない不思議な、大きな恵みを頂き、かつてない復活祭を過ごすことになった。

マリア！アレルヤ！大感謝！

## イギリス便り 英国での挑戦

奄美支部 励倫太郎



同窓会の皆様、お久しぶりです。北ウエールズからまた私個人の事や、最近の英国に

と、メディアではそう予想されています。それでも、キャメロン首相は、支出制限の方針を続けるとの声明を出しています。その他にも、欧州議会選挙が、5月22日に行われるため、テレビや新聞ニュースではその選挙活動が多く報道されています。その中で、今注目を集めているのが、英国独立党(UK Independence Party)です。英国独立党は、欧州連合からの脱退や移民の制限を基本方針としている政党で、近年少しずつその支持率が上がりつつあります。特に移



▲ヨルダン川の洗礼風景を思わせる儀



▲これが白いロザリオ

民の制限に関しては、強い支持があり、世論調査でも、移民政策は国民の関心が高い事が、分かっています。来年は、ビザの申請をしなければなりません。そして、ビザ申請の際にはいつも、ビザが下りるのかどうか、毎日心配の日々が続きます。その為、移民政策に関しては、興味深く記事を読んでいます。

私自身に関しての最近の出来事は、初めてDIY(Do It Yourself)に挑戦しました。イギリスでは、DIYはよく行われています。一般的には、補修作業やお部屋の塗装などが、主に行われていますが、昔の職場では、家の建て増しをなさった先輩がいました。初心者の方は、お義父さんから、必要な道具の購入から、その使い方などを教

わったりと、色々ご指導を頂きました。去年の12月に、妻が妊娠したことが分かり、それがDIYの挑戦のきっかけになりました。最初は、部屋の入れ替

えや模様替えをしたり、本棚を設けたりと単純なことをしていました。でも、段々と欲が沸いてきてしまい、小さな書斎を作ろうと決め、お義父さんのお手助けを頂きなんとか完成させました。

その過程で、一番苦労したのは、小さな部屋の隅に作った勉強机でした。私たちの住んでいる家は、1890年に建てられた集合住宅のため、部屋の壁は、少し歪んでいて、全然真直ぐな壁はなく、壁の隅は、90度では無い為、その隅に、机を上手く合わせるのには、とても苦労しました。

まず始めに、部屋の隅を、段ボールを切って、机の型を作り、その型に合わせて木材を電気のござりで切って、その隅にきちんと合う様に、何度も隅に机を合わせては、取り外して木材を切るその繰り返しでした。今では、小さな書斎を通る度に、机に目が留まります。



▲お義父さんと一緒にDIYの特訓中



▲無事に生まれた長男、倫太郎ジュニアです。



▲新しい子供部屋。二つの絵は、お義父さんが描いた物です。

先々週、出産前の講習が、終了しました。私たちの長男の予定日は、6月19日です。また、新しい挑戦が、始まります。大きな不安と興奮が入り交じった気持ちですが、妻と二人で助け合い、そして、他の方々のお助けやご指導を頂きながら、今度は、育児に挑戦です。

それでは、同窓会の皆様のご健康をお祈りします。

◆二特集

# Santiago de Compostela

(サンティアゴ・デ・コンポステーラ)

## 巡礼路

camino de peregrinación

鹿児島市在住 安田 誠

! Buen Viaje ! (良い旅を！)

3年越しの夢がようやく実現した。

5月19日午後7時、関西空港に降り立った瞬間そう思った。帰路はオランダのアムステルダムからの長時間のフライトではあったが、その疲れも一瞬に吹っ飛んだ。

63歳でのリタイアを機に、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラへの徒歩巡礼を思い立ったものの、一人旅と言葉の不安で一時は戸惑いも覚えた。同行者を募るも小生の様な素浪人はなかなか見つからず諦めかけていた矢先、同郷の有志(知人)が同行を申し出た。これぞ神に感謝とばかり急ぎ準備に取り掛かり、4月16日、延べ34日間のバックパッカーの旅へと飛び立った。二人共初期高齢者の仲間入りをしている為、徒歩巡礼を中盤に六日間(約120km・徒歩巡礼では最も最短で巡礼証明書が貰えるぎりぎりの距離)に設定し前後を観光、Taizé Villages (テゼ村)での一週間の Community Life を組み込んでの



▲ペリグリーノ(巡礼者)仲間と

Peregrinación (巡礼)である。

旅のスタートはオーストリアのViennaに始まる。空港からLyon Part Dieu 駅に着く。そこからは鉄道の旅である。イタリアのベニス、サン・マルコ寺院、ミラノのドオモ大聖堂と、時の権力者の象徴の表れか、行かれた方はご存知だろうが、いずれも見事な教会建築等の数々。中でもミラノのレオナルド・ダ・ヴィンチ作のThe Last Supper (最後の晩餐)の絵画は必見である(完全な予約制)。

旅は更に進みイタリア、フランス南部の海岸線へと入るも列車の時間の関係で国境近くのベンチミッレで止む無く一泊。駅構内で寝袋にて一夜を明かす。翌日、列車は海岸線をモナコ、ニース、カンヌと回りフランス内陸のマコンへと。目指すは今回の旅の前半の巡礼地、Taizé Villages (テゼ

村)入村。我々は予定より一日遅れでの入村。4月21日夕刻チェックインしそれぞれの部屋に行く。部屋と言ってもCASA(家)に入るが各グループでシェアし合いそこで約一週間を過ごす仕組み。早速、夕食前に翌日からTIME TABLE(時間割表)を受け取るのである。この村の創設者はブラザー・ロジェ氏なる人物との事であるがカトリック、プロテスタント、又宗教を問わずエキシメニカルな環境、施設として運営されている。特に若い世代が運営の中心を担い老若男女数千名規模の滞在者である。村の一週間の日程を少し紹介すると、何やら昔の学園の生活が思い出されてくる(次頁の一週間の日程表を参照)。

4月27日(日)テゼ村を退村。鉄道の旅はいよいよスペインへ入りバルセロナ、グラナダ、セビリア、コルトバ、マドリッドへと続く。イタリアと並びまさに、カトリックの国らしく各地に目を見張るクラシカルな教会建築が有り、陽気な国民性が街を賑やかにし、観光客を楽しませてくれる。我々がミサの中で頂くご聖体と葡萄酒、ヨーロッパ文化のパンとワインを彷彿させる。

更に旅は佳境に入り、マドリッドでの日曜日(ミサ(5月4日)の後、今回の目的なる徒歩巡礼の起点地、

SARRIA (サリア) に入り、早速宿探しが始まる。今回の旅の楽しさの一つには現地での宿屋(ホテル『スペインではオテル』)探し。もう一つはBIB(日本で言う居酒屋)での食事(食事と言ってもつまみ(タパス)程度。特に今回は巡礼と言う事も有り、なるべく安い宿を探すのに奔走した。更にサリアからは巡礼者向けの安宿(簡易宿泊所(二段ベッドで日本の山小屋、スキー小屋=ALBERGUE)が数多く、巡礼道に入ってから宿探しは比較的楽であった。

さて、その巡礼道であるが小生、関

西時代に熊野古道(一泊二日54km)を歩いた経験はあるものの、今回は背中に十数キロのバッグを背負い、少し大きめのウェストポーチ(中に亡き両親の写真を入れている)右手で手荷物(カマキリで引くと云った有様。一日目の目標を20数キロとし、サリアを出発し、最初の目的地ポルトマリンス、パラス・デ・レイ、アルスア、ペドロウソ、サンテイアゴ・デ・コンポステラ着が六日目の夕刻。即、巡礼証明書を買った宿探しひとまず落ち着く。

翌日(ドミンゴ=日曜日)正午より大聖堂にて巡礼者の為の枢機卿司式に

## 事務局より

### ●奄美支部の大ニュース

奄美支部結成10周年を記念して「長崎・五島巡礼の旅」を実施するという大ニュースが届きました。おおよその内容は以下の通りです。来年の同窓会総会に合わせて実施し、総会後はクラス会も計画されています。みなさん、これを機会に長崎大集合しませんか?

#### 《行程予定》

金曜日の船で鹿児島：長崎(高速バス)：到着後ルルド等巡礼：学校訪問：同窓会総会(懇親会) 参加：ク

ラス会：翌日、日帰り五島巡礼(長崎泊)：帰路へ  
《実施予定日》  
2015年(来年) 同窓会総会時  
☆奄美支部、さすが!です。

### ●永井博士の翻訳復刻本

寄付を頂いた方には、この会報に同封しております。その他の方で購入を希望される方は、在庫がありますのでご連絡願います。1600円(送料、税込み)です。

### ●復刻版寄付者名一覽(敬称略)

崎濱宏美/里脇岩男/今村光義/瀧下孝雄/水野清哉/竹内昭彦/泉治彦

## Taizé – A pilgrimage of trust on earth

"Towards a new solidarity"

Coming to Taizé is an opportunity to seek communion with God through common prayer, singing, personal reflection and sharing.

Monday to Saturday	
8.15 am	morning prayer then breakfast
10.00 am	meetings (全て英語でのトーク)
12.20 pm	midday prayer followed by lunch
2.00 pm	song practice
3.15 pm	meetings
5.15 pm	snack
5.45 pm	workshops (from Tuesday onwards)
7.00 pm	supper
8.30 pm	evening prayer
Friday evening	
8.30 pm	evening prayer followed by prayer around the cross
Saturday	
11.45 am	meeting to prepare the Sunday welcome in front of La Morada
8.30 pm	evening prayer with candles symbolising the light of Easter
Sunday	
8.45 am	breakfast
10.00 am	Eucharist (カトリックで云うミサ)
1.00 pm	lunch
3.30 pm	welcoming of new arrivals
7.00 pm	supper
8.30 pm	evening prayer

▲テゼ村での1週間の日程表

よる荘厳ミサ。各巡礼者の国名が読み上げられ、(世界の多くの国名が読まれた。個人での参加のせいだろうか?数千名の巡礼者の中に日本人は我々2人と京都からの未信者の方の3名) 荘厳ミサの終了間際に皆が待っていた香炉(ポタフメイロ)が大きく振られ巡礼者を祝福し、清めてくれた瞬間は何とも言えない感慨深いものがあった。退堂し奇しくも枢機卿と出会い、日本からと言うとサンキューを連発



▲枢機卿との1ショット

してくれました。

殆ど道に迷わず歩けたのも、巡礼道にホタテ貝(その昔巡礼者がホタテを食べ乍ら歩いたとか、ホタテの貝殻で水を飲み乍ら歩いたとか諸説有り)の道標が有る為。又、行き交う巡礼者の挨拶の言葉に励まされての「! Buen Camino! = 良い道」(巡礼道では各国の言葉が飛び交うが、中でも一番多い挨拶言葉)であった。一息ついて翌日、最後の巡礼地ポルトガルのファティマを訪れた。この巡礼宿(ここはホテル)もホテルにしては一人20 Euro(日本円にして3千円程度)と安かった。因みに先のALBERGUEは10 Euro(食事代も殆どの所が9 Euro。旅の最後は風車と運河の国オランダ(アムステルダム)經由にて帰国。全てにデオ・グラチアス!!

／藤村大造／勅倫太郎／田下幸次／山田明／山下光輝／岡信夫／松尾定五／斉藤優／高見正明／平松弘／赤本喜代次／坂谷光雄／泊秀信／松尾豊樹／田辺久義／末吉矢作／阿部正人／市川雅弘／吉川信夫／磯辺浪男／山内春治／杉本國光／萩原儀一／志山悦男／濱崎久光／水浦鉄幸／松本修／山村幸雄／西田剛／水口透／松田二次夫／水浦学／小林道太／池田健二／田下三佐男／峯重昭／嶋拓朗／本田純／近藤芳弥／森永勇作／山下誠／桜本好美／吉田珠美／城山善之／平松壽護／松永優蔵／永栄惠太／水谷紀輔／杉山宣明／山野誠／永山一房／木場田繁行／木場田友次／押川寿夫／大石諭／岡野俊満／熊川武俊／里脇岩男／有川功／熊野重幸／白浜雪義／松崎好弘／田川大夢／吉村慎仁郎／大黒祐輝

※手違いで名前を掲載されていない方がいらつしやるかもしれません。その際はお詫び申し上げます。その際にはご連絡をお願いいたします。次号に掲載いたします。

●ミニ便り

※このコーナーは、皆さんが振り込み用紙に書いて下さったお便りを紹介しています。これからも大いにご利用願います。(敬称略)

▼長年同窓会会長としてご尽力いただきましたが、故水浦久之様の永遠の安息をお祈りしています。「学園便り」の中で、生徒の皆さんが少人数ながら直向きな頑張りを知り、何より嬉しく思いました。これからも明日に向けて頑張ってください。

寝屋川市 萩原儀一  
▼同窓会に聖母マリアのお恵みを祈っています。聖コルベ、有り難う！

長崎市 高見正明  
▼ご苦労様です。宜しく願います。鹿嶋市 平松 弘

▼事務局の皆様、ご苦労様です。長崎市 赤本喜代次

▼随分遅くなり申し訳ございません。貴校の益々のご発展をお祈りしております。富山市 永栄惠太(母)

▼大牟田に住んで40年。近くの友だちは、先輩後輩の絆の多さに羨ましく感じ入っているところ。さて、私は、中・高・大の仲間は何処にいるやら。「英彦の泉」でささやかでも繋がっていることに、多少ホッとしています。空白の時は埋めようがありませんね。騎士道やら武士道やらと、気になる人生後半の日々です。本も申し込みます。別紙で送ります。

大牟田市 泊 秀信  
▼5月より管区本部にて奉仕していますが、まだまだ不慣れなところが多いですが、精一杯頑張ります。東京 松尾豊樹

▼永井先生の復刻出版に賛同します。くまがわ先生、英彦の泉やめないで。」バグパイプの活躍を祈ります。関東支部若返り、活動しています。

▼去年の分と今年の分の年会費を振り込みます。遅くなつてすみません。永井博士の冊子分も一緒に振り込みます。

いま、畑仕事を手伝うと、いつも小神学校での「作業」を思い出します。有意義な経験でした。埼玉県 斉藤 優

▼英彦の泉には興味深く、感謝しながら最後まで読んでいます。聖母の騎士と同窓会の今後のご発展をお祈り申し上げます。諫早市 末吉矢作

▼同窓会の盛会を祈ります。福岡県遠賀郡 松尾定五

▼「今回もマルばい、先生。」引退などと言わないで、今後ともOB会のためにご尽力をお願いします。千葉県 岡 信夫

▼長崎にも行きたい。同窓会にもあがりた。皆さんの笑顔にも出会いたい。暇が取れない！残念!!皆さんの上に聖コルベの祝福を祈ります。沖縄県 押川壽夫

▼いつも有り難うございます。一宮市 水谷紀輔  
▼忠巧は、周りの皆さんに助けられ、元気にやっています。奈良市 吉田忠巧(母)


▼いつも有り難うございます。瀬戸市 桜本好美

▼「初老」の定義は40歳からだそうです。人生は折り返しましたが、仕事は2〜3わりしか出来ておりません。四日市 山下 誠

▼三千元は永井博士。八千元は会費と寄付(少しでごめんなさい) 大島郡 森永勇作

▼年に一度の英彦の泉。楽しみにし、懐かしく学園を思い出しています。50年以上前のことが昨日のようです。若い人たちの便りも、よく頑張っているなと、感心しています。まだまだ続くように。鎌倉市 平松壽護

**原稿募集**



近況報告を兼ねて「英彦の泉」に投稿してみませんか。同窓生ならどなたでも構いません。思い出、雑感等々何でも結構です。是非、ご協力下さい。

テーマは自由、出来れば800文字程度にまとめて熊川又は聖母の騎士学園へ送付してください。

提出期限は毎年7月20日です。よろしく願っています。

(熊川メール:toshi\_dominic\_kumagawa@yahoo.co.jp)

# 26年度 総会・懇親会 のお知らせ



**10月18日(土)開催**

**会場**  
コルベ記念館ホール  
(御ミサ：コルベ志願院)

総会 17時00分～

懇親会 18時00分～

会費 3,000円

参加お申し込みをされる方は、別紙申込用紙をFAXか郵送していただくか、下記メールアドレス(熊川)に御連絡下さい。

FAX: 095-823-4759

Eメール(熊川): toshi\_dominic\_kumagawa@yahoo.co.jp

## 平成25年度 決算報告書

摘要	収入	支出	残高等
前年度繰越金	1,051,661		
会費	846,000		
入会金	36,000		
寄付金	550,000		
クラブ援助費		40,000	
学園行事費		50,000	
学園奨学金		60,000	
会報誌代		219,450	
会報送料代		74,919	
同窓会御ミサお礼		10,000	
同窓会懇親会費用		66,000	
慶弔費		33,421	水浦久之様 浜田盛茂様
会議費		1,870	
合計	2,483,661	555,660	1,928,001

## 平成26年度 予算計画書

摘要	収入	支出	残高
繰越金	1,928,001		
会費	300,000		
入会金	39,000		
奨学金		60,000	
全国総文祭援助費		50,000	
クラブ活動援助費		140,000	
書籍スミス神父印刷費		800,000	
会報送料・通信費		80,000	
会報印刷費		230,000	
会議費		10,000	
慶弔費		50,000	
合計	2,267,001	1,420,000	847,001

## 聖母の騎士学園同窓会

(本部役員名簿)

会長	木場田友次		
副会長	永山 一房	顧問	崎濱 宏美
	石田 光勝	書記	小島 正人
	山村 幸雄	会計	赤尾 城司
事務局	熊川 武俊	監査	峰 徹
理事			
里脇 岩男、	窄口 富行、	松本 修	
松下 昭征、	竹内 松雄、	大石 諭	
平 孝之、	赤本喜代次、	滝元 敦	

## 編集後記

私事ですが、3年ぶりに担任をしています。この年になると3年前の担任の仕事のエモーションなんて忘れてしまい、ついでに会報のことなど忘れてしまい……たかつたのですが、そういう訳にもいかず、今焦って編集に取り組んでいます。

現在2年生の小岱証君が、昨年の全国総文祭長崎県大会に続き、今年も茨城県大会に県代表として「囲碁の部」に出場することになりました。この会報が届く頃にはもう結果が出ていますが、頑張つて欲しいものです。ついでながら、バグパイプ部も来年7月に実施される滋賀県大会に「器楽・管弦楽部門」の長崎

県代表として出場することになりそうです。これから1年間しっかり練習して本番に臨みたいと思つています。同窓会では、そういう大会に出場するクラブやその他のクラブ活動に対して皆さんから頂いている会費から援助金を出しています。

全国大会と言えば、またまた私事ですが、高3の末息子が野球部に属しており、昨日まで甲子園を目指して戦つておりました。1回戦は、強豪長崎日大を、2回戦は、コールド勝ち。そして、いよいよ3回戦は、今年の選抜長崎県代表の創成館高校。まずはこの試合をする事を目標に頑張つてきましたが、惜しくも3-0で敗退しました。でも、この暑い中、一生懸命になってプレーしている選手達、そして、スタンドで

応援している生徒達を見てみると、羨ましさでいっぱいになりました。大規模校でしか味わえないスポーツと大応援団、一緒に応援していると感動でいっぱいになりました。そして、当然この感動を本校の生徒達にも味合せてあげたい。小さな学校でもできること。個性を生かしたクラブ等々で。

来年は「学園劇」が復活します。校長先生曰く、「本校の生徒にとつては、これが甲子園。」本校に入学したからには、みんなが感動して卒業していつてもらいたい！本当にそう思います。

来年をお楽しみに！

(くまがわ)

